

春季花の品評会



3月11日、島瀬公園で「第27回佐世保春季花の品評会」が開かれ、佐世保花き園芸農業協同組合の組合員が栽培した、バラやチューリップ、カーネーションなどの花き30品目、約300品種、412点が出品され、多くの見学者でにぎわいました。この品評会は、生産者の技術の向上と花の消費拡大を目的に開かれて



審査の様子

る茎の曲がりの有無や花のつき方、商品性などで、一つ一つの花を手に取りながら真剣な表情で審査が行われました。

ことしは寒波の影響で、生産者もこの品評会に合わせて開花させるのは大変だったそうですが、見事な花がそろい、会場は華やかな雰囲気になります。見学に訪れた市民の皆さん

いるもので、県や市の担当者、市場関係者など6人が審査に当たりました。審査基準は、花の色や形のほか、「花立ち」と言われ



品評会会場

て生産しなければならぬため、その花の商品価値を見極めることも重要になってきます。現在、佐世保花き園芸農業協同組合では、年間生産量の約3割を佐世保花市場に出荷していますが、新しい品種も生産されており、市場での評価も高くなっています。

も花の美しさに見入っていました。花は時季によつて色の需要が違ってくることもあって、半年から1年先の需要を見越して



フラワーアレンジメント教室に参加した市民の皆さん

完成したフラワーアレンジメント

当日、会場では消費拡大を目指してフラワーアレンジメント教室も開かれ、参加した市民の皆さんは市内の花店の指導を受けながら、作品作りを楽しんでいました。



チューリップ



ガーベラ



カーネーション



キク



バラ



サルタン



スイートピー



キンギョソウ



スターチス



スイセン



アスチルベ

バラ



JAながさき西海・宮バラ部会では、部会長の西隆博さんを中心に5人の部会員がバラを栽培し、「西海の花」のブランド名で主に関西方面へ出荷しています。硬質フィルムハウスは冬場でも最低18℃に保たれ、降り注ぐ太陽の光を浴びながらバラが可憐な花を付けています。現在宮ばら部会では、城間町にある約1.7ヘクタールのハウスで「ローテローゼ」「オークランド」など29品種を栽培しています。ここでは、平成13年から本県で開



オークランド



トロピカルアマゾン

発された「ソーラーローズシステム」を取り入れています。ソーラーローズシステムは通路と条間（苗と苗の間隔）を広げ、収穫が済んだ枝を内側に折り曲げる栽培方法で、日光を十分に取りこむことができるため、バラの品質が向上し収穫量も増加します。西さんは、「病害虫の管理や品種選定など大変ですが、市場性の高いバラを安定供給できるように、部会員みんなで頑張っています」と話していました。



キク

昭和55年に設立された西海菊出荷組合では、現在宮地区で9人の会員がハウスを中心に、約4.2ヘクタールで6種類のキクを栽培し、関西を中心に「西海菊」のブランド名で出荷をしています。米の生産調整による水田からの転作で、出荷組合全体の作付面積も結成当初に比べ拡大するなど、生産も順調に伸びています。会員の川内通良さん（南風崎町の1700坪（約56アール）のビニールハウスでも電照による菊栽培が行



精興の光玉



神馬

われています。電照菊栽培は、夜間（23時〜3時）にハウス内に照明をつけ、人工的に日照時間を長くすることで開花時期を遅らせ、需要が最も多い正月から春の彼岸の間に花を出荷できるようにするものです。「夫婦と4人のパートナーで毎日作業をしています。冬場はビニールハウスの中を22〜23℃に保たなければ収穫が1カ月も送れてしまうなど、キクは温度管理が難しいので気が抜けないですね」と川内さんは話していました。



ソーラーローズシステム



ローテローゼ



宮バラ部会の皆さん



電照菊栽培



精興の夢



川内通良さん